

SGLT2 阻害薬について

-おくすりの話 vol.21 -

薬剤部 田邊 晃子



新機序の糖尿病治療薬 SGLT2阻害薬

薬の原型は意外なところから発見されるものです。一番新しく、新機序の糖尿病治療薬「SGLT2阻害薬」の原型はリンゴの木からその成分が発見され、約30年研究され2014年薬剤として発売されました。

SGLT2とは

SGLT2は腎臓の尿細管にある、糖を運ぶための仕組みです。腎臓の中の糸球体という部分で、血液がろ過されてつくられた尿から糖分のみを体内に戻す役割があります。

SGLT2の働きで、尿にろ過された糖分のほぼ100%が体内に戻されます。これは、健康な人体にとっては栄養素として重要な糖をロスしないための大切なしくみです。(図1)

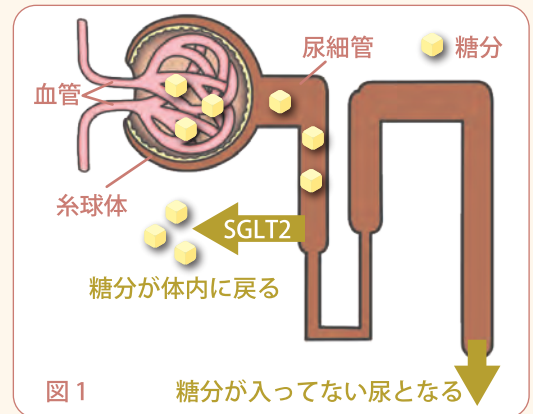


図1 糖分が入ってない尿となる

SGLT2阻害薬を使うと

糖尿病の患者様は血中に余分な糖質が溢れている状態です。SGLT2の糖を体に戻す役割を抑える(阻害する)ことで、尿に余分な糖を排出し血液中の糖を減少させることができます。(図2)

他の薬剤と違うのが「インスリンに関与しない」という部分です。

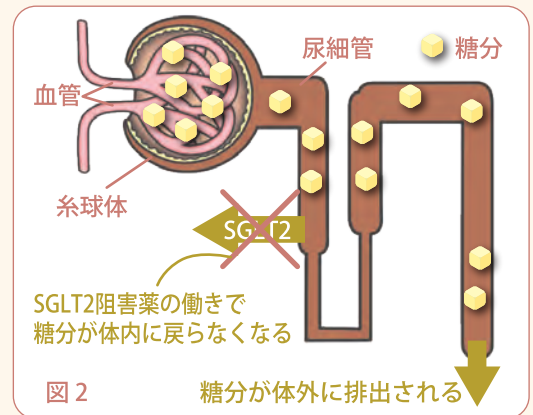


図2 糖分が体外に排出される

インスリンと今までの糖尿病治療薬

インスリンは血中の糖を細胞内に取り込む、つまり栄養を体内に貯蔵するのを助けるホルモンです。今までの糖尿病治療薬のほとんどがインスリンをたくさん出す方向に働いていました。血液中にある糖を体で貯蔵するので、体重が増えてしまう傾向がありました。

SGLT2阻害薬の効果と注意点

SGLT2阻害薬はHbA1cを下げる効果、血糖値を下げる効果があります。それに加えて特徴的なのは、体に糖質を貯蔵しないので体重減少効果が期待できることです。実際にSGLT2阻害薬を飲んだ後24時間で、糖分が尿に約80gほど排泄されます。この量は角砂糖20個分、カロリーにして320Kcal分です。この分が体に貯蔵されないため、体重減少効果につながります。注意点としては、脱水と脱水による脳梗塞のリスクがある事です。夏の時期は特に注意が必要になり、水分を多く取るなどの対策が必要です。他にも尿路・性器感染症、皮膚症状、などのリスクがあります。

最後に

長期間おつきあいすることになる「生活習慣病」。糖尿病もその一つです。薬剤も時に新しい効き方のものが出てきますが、薬剤だけでは治療が進まないのが生活習慣病の特徴です。食事、運動といった生活習慣をみなおし、その上で薬剤での治療を進めていければと考えています。

